

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 18 日現在

機関番号：14101

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17636

研究課題名(和文)介護老人保健施設における看護師の専門職的自律性向上モデルの開発

研究課題名(英文)Development of nurse' professional autonomy improvement model in geriatric health care facilities

研究代表者

宮田 千春(MIYATA, CHIHARU)

三重大学・医学系研究科・准教授

研究者番号：40738655

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：介護老人保健施設の看護職者の「専門職的自律性」と「看護師としての自己実現」、  
「仕事上の人間関係」との関連を探求した。対象者は728名で、年齢平均49.7歳(SD9.59)であった。「仕事上の  
人間関係」と「看護師としての自己実現」は専門職的自律性と強い相関を認めた。属性間での平均値の差の検定  
(有意水準<0.005)では、専門職的自律性は「離職期間の有無」、「現職場での就業継続意思」で有意差を認め  
た。「看護師としての自己実現」では、「雇用形態」で有意差を認め、正規職員が非正規職員よりも高い傾向がみ  
られた。潜在変数化と観測変数を確定し共分散構造分析を行い、専門職的自律性向上モデルを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

老健の看護師の専門職的自律性を、個人特性、職場での人間関係および看護師としての自己実現意識の視点から  
明らかにし、専門職的自律性の獲得と向上のためのメカニズムの解明に寄与する知見が得られた。さらにこの知  
見は、専門職的自律性の向上により看護師としての役割行動の明確化やケアの質の向上と資源利用の効率化によ  
るコスト削減にもつながるものである。また、自律性の度合いは社会がその職業をどの程度専門職としてみなすか  
の指標でもあり、専門職間相互の関係や看護職に対する職務信頼度の向上に加えて、看護職自身の専門職者とし  
て高いレベルの仕事を目指した自己啓発行動を促進することができる。

研究成果の概要(英文)：We conducted cross-sectional survey, to explored the relationship between "  
professional autonomy of nurses" and "self-actualization as a nurse", "human relations at workplace"  
in the Geriatric Health Services Facility. There were 728 participants of questionnaire, with an  
average age of 49.7 years (SD9.59) and an average of 24.2 years of nursing experience (SD10.8). We  
found a strong correlation between "human relations at work" and "self-actualization as a nurse" and  
professional autonomy. In the analyze of the difference in mean values between attributes  
(significance level < 0.005), a significant difference was found for professional autonomy in "  
whether or not there was a separation period" and "intention to retention at the current workplace."  
In "Self-actualization as a nurse", a significant difference was found in "Employment status", and  
full-time employees tended to be higher than non-fulltime employees. A model for improving nurse'  
professional autonomy was developed.

研究分野：看護管理学

キーワード：介護老人保健施設 専門的自律性 看護師

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

国の療養病床再編計画における急性期病床の主要な受け皿の一つである介護老人保健施設(以下:老健)は、医療依存度の高い利用者や重症者の増加を受け、看護師の業務内容も変化している。専門的知識を要する医療処置、急変時の医療的な判断と対応、さらにはエンドライフケアへのニーズも高まり、これらのニーズに対応するために、他職種との連携の中において数少ない医療職者としてその専門職性を発揮し、利用者への質の高いケア提供が求められている。しかしながら、老健の看護師の専門職的自律性への発揮には多くの課題が報告されており、専門職的自律性への認識やその関連要因の検討は未だ不十分である。

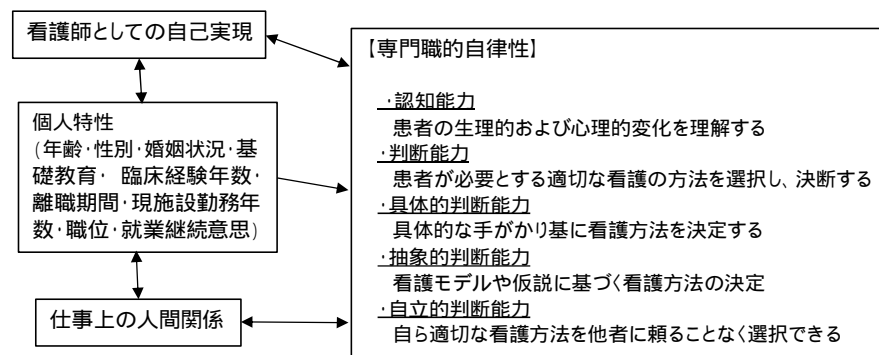
筆者らは、老健のケアの質の向上のために、看護管理者に求められる能力及び老健の看護職の専門職としての4つの特性を明らかにした。(Miyata, 2016)。次のステップとして、看護師としての役割行動発揮のための看護職自身の要件として専門職的自律性に焦点を当てた。看護職の専門職的自律性は「看護の専門的知識・技術を基盤として、看護職自らが看護の必要性を判断し、主体的・自主的に看護を実践するための特性」である。この形成プロセスについては、長期目標や計画を立て意識的に自分の活動を行うようになる2~3年と定義され(Patricia, 1984/井部 訳, 1992)少なくとも勤続2年以上の看護専門職にこの自律性の確立が促される。その一方、臨床経験6年から10年で専門職的自律性の停滞と「認知能力」の低下も指摘されている。

老健の看護職の多くはこの専門職的自律性が獲得される期間に臨床経験があるものの、その後離職期間を経た再就職者でかつ臨床経験6年~10年後を過ぎた40歳代以上が多くを占める。さらに、高齢者施設の特性から医療施設とは異なる社会的背景や人間関係などの影響も予測される。

以上のことから、本研究ではこれまで稀少である老健の看護職者の専門職的自律性に関して、年齢、経験年数、教育背景、離職時期と期間等の基本属性に自己実現、職務信頼度、仕事上の人間関係との関連を探求し、老健の看護師の専門職的自律性向上のモデルを検討するという着想に至った。

本研究は、志自岐(1998)の看護師の専門職的自律の概念モデルを基に看護を実践する際の看護師としての役割行動を専門職的自律性で捉え、諸要因の中に専門職的自律性に影響を与えるものがあるという仮説の下に実施した。

本研究の概念図



### 2. 研究の目的

老健の看護師の専門性の促進に関与する要因およびその他の主要な要因との関連を統計的に分析し、専門職的自律性向上モデルを構築する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 研究デザイン

横断的研究(面接調査および質問紙調査)

#### (2) データ収集方法及び分析方法

##### 1) 面接調査: 半構造化面接。

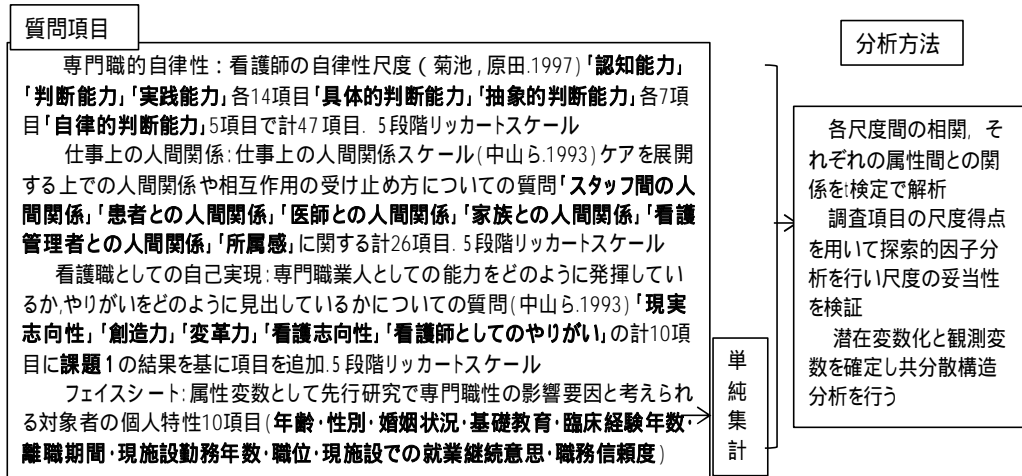
近畿地方(大阪, 京都, 兵庫, 滋賀, 奈良, 和歌山)の老健に勤務する看護師をスノーボール抽出法にて約20名抽出。対象者のリクルートは面接のデータ分析によってカテゴリーの飽和化を認めた時点で終了した。

インタビューガイド: 専門職的自律性に関する認識と職場での現状また、専門職的自律性の構成要素とされる認知能力、判断能力(具体的・抽象的・自立的)および自己実現への捉え方を知ることが目的として作成。

分析方法: インタビューの内容は、逐語録に起こし、質的記述的分析にて解析。

##### 2) 質問紙調査: WAMNET 介護事業者情報に登録されている全国の介護老人保健施設の3931施設の施設長へ参加協力依頼の文書を送付し、同意が得られた施設の正看護師を対象に質問紙を送付した。

### 3) 調査内容および分析方法



### 4 . 研究成果

介護老人保健施設（以下老健）における看護師の専門職性向上モデルの構築である。2018年度は、老健施設における看護の専門職性について学術的な視点からの意見を得ることを目標とし、面接調査を実施した。質問内容は、当該研究の研究者の先行研究から得られた研究成果を基に看護職の専門職性の構成要素と考えられる内容への認識、及び専門職的自律性に関する捉え方、看護師の自律尺度の構成要素とされる認知能力、判断能力（具体的・抽象的・自立的）および自己実現への捉え方、施設内外の教育の影響、専門職的自律性に係る看護師の知識やスキル修得への課題と考えることなどであった。対象者は老健の看護管理者、老人専門看護師の計8名であった。インタビューの内容は質的記述的分析し、看護職の専門職性の公共性（社会的奉仕）、多職種との協働における自律性、創造性が抽出された。

2020年以降は質問紙調査を実施。結果は、配布数1,500、回収746（回収率49.7%）、欠損値のない回答728（有効回答率97.5%）を分析した。対象者の属性は、年齢平均49.7歳（SD9.59）、婚姻状況は、独身191名、既婚537名、看護師経験年数は20年以上が68%（495名）を占め平均24.2年（SD10.8）であった。看護基礎教育は、看護師養成3年課程が最も多く46.3%（345名）、職位はスタッフが66%（484名）を占め、雇用形態は90%（662名）が正規職員であった。調査項目の尺度得点を用いて探索的因子分析を行い尺度の妥当性を検証した。各尺度の相関は、仕事上の人間関係、看護師としての自己実現共に専門職的自律性と強い相関を認めた。各尺度の属性間での平均値の差の検定（有意水準 $<0.005$ ）の結果は、専門職的自律性においては、離職期間在りなし、現職場での就業継続意思ありなしで有意差を認めた。仕事上の人間関係は属性間での有意差は認められなかった。看護師としての自己実現は、雇用形態で有意差を認め、正規職員が非正規職員よりも高い傾向がみられた。潜在変数化と観測変数を確定し共分散構造分析を行い、専門職的自律性向上モデルを作成した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Chiharu Miyata., Hidenori Arai.	4. 巻 8
2. 論文標題 Professional Behaviors of Nurses in Geriatric Health Services Facility in Japan.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Advances in Aging Research	6. 最初と最後の頁 129-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4236/aar.2019.86010 Oct. 31, 2019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Chiharu MIYATA
2. 発表標題 Effective Management of the nurse administrators of Geriatric Care Facility to creating an environment for Collaborative practice
3. 学会等名 30th World Nursing Care Congress（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chiharu Miyata., Hidenori Arai.
2. 発表標題 The role expectation of nurse manager in geriatric health services facilities
3. 学会等名 Conference on Team Nursing Management（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chiharu Miyata., Hidenori Arai
2. 発表標題 Nurse professional autonomy in geriatric health services facilities
3. 学会等名 1226TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON MEDICAL & HEALTH SCIENC（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chiharu Miyata
2. 発表標題 Key factors for effective leadership of nurse managers in Geriatric Health Service Facilities
3. 学会等名 3rd Edition of Singapore Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chiharu Miyata., Hidenori Arai
2. 発表標題 Exploration of nurse autonomy in Geriatric Health Service Facilities
3. 学会等名 The 6th International Academic Conference on Management and Economics (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関